

NO.	患者		1日投与量 投与期間	副作用		備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置		
1	女 20代	双極性感情障害[躁うつ病] (なし)	600mg 17日間  800mg 14日間  (2日間投与なし)  800mg 3日間	<b>過敏症症候群</b> 投与開始日 : 双極性感情障害の治療目的にて入院し, 本剤600mg, 炭酸リチウム600mg等を投与開始。 投与18日目 : 本剤および炭酸リチウムをそれぞれ800mgに増量。 投与30日目 : 倦怠感あり, 37.3 の発熱を認める。 投与31日目 (投与中止日) : 発熱は38 台に上昇し, 体幹に紅斑が出現し, トランスアミラーゼ上昇, 血小板減少, 好酸球上昇を認める。使用薬剤を投与中止。 中止1日後 : 異型リンパ球1.0%検出。 中止2日後 (再投与開始日) : 体温は下降せず, 頸部・耳後部のリンパ節腫脹, 全身浮腫を認めた。異型リンパ球6.0%。精神運動興奮に対し本剤800mgを再開。 再投与3日目 (再投与中止日) : 本剤の投与を再度中止。 再投与中止1日後 : 異型リンパ球7.0%。 再投与中止2日後 : 異型リンパ球4.0%。 再投与中止4日後 : ベタメタゾン, グリチルリチン・グリシン・システイン配合剤の点滴投与を開始(6日間)。 再投与中止10日後 : 全身状態悪化のため他院へ転院。CPAP(持続的陽圧呼吸療法)施行し(4日間), 徐々に改善。 再投与中止約1ヵ月半後 : 症状回復。 パッチテスト: 本剤(陽性), 炭酸リチウム(陰性) DLST: 本剤(陽性), 炭酸リチウム(陽性) HHV-6 IgG: 2560倍, HHV-6 DNA PCR(+)		企業報告

#### 臨床検査値

	投与開始日	中止1日後	再投与中止 1日後	再投与中止 9日後	再投与中止 15日後	再投与中止 約1ヵ月半後
白血球数(/mm <sup>3</sup> )	8530	6110	15780	3560	5700	5540
好酸球(%)	0.7	6.0	13.0	0.0		12.1
異型リンパ球(%)		1.0	7.0	1.0		
血小板数(×10 <sup>4</sup> /mm <sup>3</sup> )	31.1	10.4	11.0	19.0		26.8
AST(GOT)(IU/L)	18	183	244	39	71	35
ALT(GPT)(IU/L)	17	389	434	102	126	41
LDH(IU/L)	187	459	816	393		191

併用薬: 炭酸リチウム, 塩酸クロルプロマジン, 塩酸ピペリデン, エチゾラム, 非ピリン系感冒剤

NO.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
2	男 80代	てんかん 発作 (糖尿病)	800mg 約3年7ヵ月間	<b>抗利尿ホルモン不適合分泌</b> 投与開始日 : 欠神発作(意識消失発作)に対し本剤を投与開始。 投与約4ヵ月後 : 血液検査にて, 血清ナトリウム129mEq/Lを認め(本剤投与開始約1年前, 血清ナトリウム140mEq/L), 以後血清ナトリウム126~135mEq/Lと低値継続。 投与約3年7ヵ月後 : 精査目的にて入院。血清ナトリウム128mEq/L, 血漿浸透圧270mOsm/kg, 尿浸透圧345mOsm/kg, 尿中ナトリウム132mEq/日, 抗利尿ホルモン0.5pg/mL, 脱水なし, 浮腫なし。 本剤による抗利尿ホルモン不適合分泌 (SIADH)と診断し, 本剤を投与中止。 中止49日後 : 抗利尿ホルモン0.7pg/mL, 血清ナトリウム135mEq/Lと改善。	企業報告

#### 臨床検査値

	投与約1年前	投与 約4ヵ月後	投与約2年 9ヵ月後	投与約3年 7ヵ月後	中止49日後
クレアチニン(mg/dL)	0.9	0.8	0.9	0.8	0.9
BUN(mg/dL)	17	13	18	16	18
血清ナトリウム(mEq/L)	140	129	128	128	135
血清カリウム(mEq/L)	3.7	4.1	4.5	4.6	4.3
血清クロール(mEq/L)	105	96	96	98	103
血漿浸透圧(mOsm/kg)			264	270	285
抗利尿ホルモン(バソプレシン) (pg/mL)			1.6	0.5	0.7
尿中ナトリウム(mEq/日)				132	
尿浸透圧(mOsm/kg)			491	345	401

併用薬: グリクラジド, 塩酸ジフェニドール